

大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 理化学研究所 生命機能科学研究センター

網膜再生医療研究開発プロジェクト プロジェクトリーダー

御名前 高橋 政代 様

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

● 是非すべきこと

- 資本主義や規制のルールにとらわれない新しい社会、医療の理想像を提示すること。
- 大型プロジェクトの推進を幅広い分野の若手に経験させること
 - ◇ 官民間問わず近年の緊縮財政の弊害として、適正な大きさの開発費の使い方を勉強・経験することを経していない意思決定者が増えたことが挙げられる。開発費は節約も効果的な利用もノウハウが存在し、実地で身につける必要がある。
 - ◇ 官民間問わず多くの若手層を招聘し、適正な権限を与え、プロジェクト推進の経験を積ませることが望ましい。

● するべきではないこと

- 「健康」を強調しないこと
 - ◇ 強調しすぎると障害や慢性疾患を持つ人たちを排除したり下にみる風潮につながる。真のインクルーシブを目指すなら強調しない方が良い。
 - ◇ 「健康」や「正常」といった幻想のその先を提示すべきと思う。

● 後世に残すべきもの

- 「もの」ではなく「こと」でイノベーションを起こすという、今までの展示物（今のもの）中心の万博ではなく、それらをこれからどう使って意味を出すかというシステム（未来につながること）を提示する新しい形の万博。
- 人類が100年後を目指して向かうべき方向性の提示。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

● 患者の利便性を最優先とした理想の「未来の病院」をデザインし実物を公開する

- 従来の医療制度ではさまざまな法規制や関係省庁・自治体の縦割り行政等により、必ずしも患者の利便性向上を第一としたサービスの提供が難しい面が存在した。
- この「未来の病院」は患者の利便性を第一に考えた際に病院の設備・サービスがどうあるべきかをゼロベースでデザインするものである。
- この「未来の病院」を訪れた万博参加者は未来の病院のサービスがどのようなものかをいち早く体験できる。
- あくまでモックアップであり、万博開設時に病院として診察などの機能が存在することは求めない。
- デザインにあたっては一度法規制やしがらみなどを全て忘れた状態で企画を行うことが望ましい。

- 受付から診察室まで全ての面で AI をはじめとした最先端技術の積極的な導入が望ましい。
- 近年技術進展が著しい再生医療分野の社会実装の際には、研究施設の並存が望ましく、そのような点もデザイン時に考慮に入れることが望ましい。
 - ◇ 再生医療をはじめとした先端医療の社会実装・臨床研究・治験は膨大な数の基礎研究の上に成り立っており、基礎研究の加速なしには先端医療の実装は難しい。
 - ◇ ロボットと AI を駆使した次世代型基礎研究の姿がデザインに含まれていることが望ましい。
- また、患者の体験向上のみではなく、昨今長時間勤務が社会問題となっている医療従事者の利便性向上・持続可能な労働環境を含めたデザインがなされることが望ましい。
- 「未来の病院」を建てることを通して、産学官すべての参画者が未来の医療システムがどうあるべきか正面から議論する場を醸成されることが望ましい。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 神戸や大阪でその頃までに整備される再生医療を、万博に世界から来て滞在する患者に対して治療できる体制と滞在する施設も作る。(手術と入院はそれぞれの病院で)
- 障害者や病気の人でも皆が恥ずかしくなくカミングアウトでき、来ている人が自然にそれらの人を助けて過ごす会場。ボランティアや主催者側が障害者を保護するのではなく、皆が自然に助け合える会場。(待ち時間にボランティア?など)

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

以上